

— art space Kimura ASK? 企画展のご案内 —

# 花、あたらし / 12Flowers

2021.5.31( Mon ) — 6.12( Sat )

この度、art space Kimura ASK?では、『花、あたらし/12Flowers』展を、5月31日（月）から6月12日（土）の会期で開催します。

本展はアートディレクター仲世古佳伸が、昨年のコロナ禍による緊急事態宣言の期間中に、毎日の散歩で出会った、道端で健気に咲きほこる、美しい春の花々のすがたを見てキュレーションの構想を練った、「花」をテーマにした展覧会です。

## [ 企画について ]

まさか2020年があんな一年になるとは、誰も予想できませんでした。

4月7日に政府から緊急事態宣言が発令され、5月6日までの29日間、私たちは不要な外出を禁じられ、お家で過ごすことを強いられました。コロナ以前には隠れていた「不都合な真実」が剥き出しになった裸の現実を尻目に向け、何とか折り合いをつけながらも、私たちはこの新しい日常を過ごしていくしかありませんでした。

予定されていたプロジェクトがすべて止まってしまい、悶々とした時間の合間をぬって近所を散歩することが日課になっていました。私の住んでいる処はすぐ近くに畑や林があって、野の花がたくさん咲いています。はたして、非常時という特別な事態での感情のあらわれだったのでしょうか。春風になびく、色とりどりの花と向き合ったとき、ふっと、かけがえのない歓喜が私の意識を掠めました。

日常の片隅で、ひっそりと力強く咲く花たちは、この事態のなかにあっても、笑みを浮かべ、しっかりと日常を生きているように映りました。自然と人の営みのささいな流れのなかに、命と暮らしと、今を生きる新たな希望があることを私に教えてくれているように思えました。

私は一年前の、このささやかな歓喜の体験を、ひとつの展覧会としてカタチにしてみたいと思いました。

コロナ禍の日常でさ迷う世界の不条理と倒錯の帰結が、何処にたどり着くのか私には判るはずもありません。ただ、まさに時代精神のざわめきがあるとしたら、11人の美術家が描く30センチ四方に満たない小さな創造の庭に咲く、さまざまな美しい花が在ることの意味を問うこともまた、私たちの生きている、現代の美術へとつながる新しい主題となりえるのではと考えています。

仲世古佳伸

## [ 展覧会概要 ]

本展は、コロナ禍がもたらした“もがき”のなかで、今改めてつくることの持続と、そして制作の「その先にあるもの」への期待を、11名の美術家の描く、それぞれの「花」の表現を通して見出すことをテーマに企画されました。作品サイズは、すべてS3号（27.3x27.3cm）に統一し、1作家2点、合計22点の平面作品と、本展キュレーター仲世古佳伸の「花」の映像作品により構成します。

■ 展覧会タイトル：花、あたらし/12Flowers

■ 会期：2021年5月31日（月）～ 6月12日（土）※日曜休廊

11:30～19:00 ※最終日17:00まで

※オープニングレセプションは開催致しません。

※ご来廊に際して新型コロナウイルス感染予防にご協力をお願い致します。

■ 会場：art space Kimura ASK?

東京都中央区京橋3-6-5 木邑ビル2F

Tel. 03-5524-0771 E-mail : asku@oak.ocn.ne.jp

アクセス：東京メトロ銀座線「京橋駅」2番出口より徒歩1分

都営浅草線「宝町駅」4番出口より徒歩1分

<http://www.kb-net.com/ask>

- 企画・キュレーター：仲世古佳伸
- 企画協力：art space Kimura ASK?
- 参加アーティスト：青山悟 / 浅井裕介 / O JUN / 小笠原盛久 / 荻野夕奈 / 佐藤舞梨萌  
五月女哲平 / 寺門孝之 / 長谷川繁 / 升谷真木子 / 森本太郎
- 協力：ANOMALY / 青山 | 目黒 / 小山登美夫ギャラリー / サトコオオエ コンテンポラリー  
美術画廊ギャルリ・ムスタシュ / ミヅマアートギャラリー

[ 参加アーティストプロフィール ]

## 青山悟（あおやま さとる）

1973年東京都生まれ。ロンドン・ゴールドスミスカレッジのテキスタイル学科を1998年に卒業。2001年にシカゴ現代美術館附属美術大学で美術学修士号を取得し、現在は東京を拠点に活動。工業用ミシンを用い、近代化以降、変容し続ける人間性や労働の価値を問い続けながら、刺繍というメディアの枠を拡張させる作品を数々発表している。近年の主な展覧会に、2020年「ドレス・コード？ー着る人たちのゲーム」（東京オペラシティギャラリー、東京）、2019年「Unfolding : Fabric of Our Life」（Center for Heritage Art &Textile、香港）などがある。



（参考作品）

「Rubber Gloves1」 2020 ゴム手袋に刺繍 24cm

撮影:青山彩加 (c) AOYAMA Satoru Courtesy of Mizuma Art Gallery

## 浅井裕介（あさい ゆうすけ）

1981年東京都生まれ。個人のアトリエでの制作と並行して、2003年よりマスキングテープに耐水性マーカーで植物を描く「マスキングプラント」の制作を開始。また、滞在制作する各々の場所で採取された土と水を使用して描く「泥絵」や、道路で使用される白線素材シートを使って制作するなど、条件の異なる場所においても奔放に作品を展開している。

主な展覧会に、2021年「生命の庭」（東京都庭園美術館、東京）、2015-2016年「浅井裕介—絵の種 土の旅」（彫刻の森美術館、神奈川）、2016年「生きとし生けるもの」（ヴァンジ彫刻庭園美術館、静岡）などがある。



（参考作品）

「small sun」 2020 板に油彩、アクリル、土 51x52.5cm

(c) ASAI Yusuke Courtesy of ANOMALY

## O JUN (おう じゅん)

1956年東京都生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻修了。人物やもの、風景といった日常のありふれたモチーフを、油彩、鉛筆、クレヨン、顔料、水彩など様々な具材を用い、独自の描きで見慣れぬ世界を作り出す。近年の主な展覧会に、2019年「ギホウのヒミツーO JUN、鬼頭健吾、田淵太郎とともに」（高松市美術館、香川）、「途中の造物」（ミヅマアートギャラリー、東京）、2017年「O JUNx棚田康司展 闘ぐ（せめぐ）」（伊丹市美術館、兵庫）、2016年「O JUN展 まんまんちゃん、あん」（国際芸術センター青森、青森）、2013年「O JUN 描く児」（府中市美術館、東京）などがある。



(参考作品)

「花」2013 キャンバスに油彩 36x24cm

撮影:宮島径 (c) O JUN Courtesy of Mizuma Art Gallery

## 小笠原盛久（おがさわら もりひさ）

1948年愛知県生まれ。高校の時、美術を志すが夢はかなわず、岡崎市市役所に定年まで勤める。65歳の時に再び美術を目指し、2019年名古屋芸術大学大学院美術研究科同時代研究領域修了。

主な展覧会に、2020年「小笠原盛久展—出会いのラブソディ」（渋谷ヒカリエ8/、東京）、2019年「名古屋芸術大学展 卒業・修了制作展2018選抜展」（愛知県美術館、愛知）、2018年「AICAD'18」（マレーシア国立美術館、マレーシア）、「6つの主題」（名古屋芸術大学Art & Design Center、愛知）、2015年「Spinach」（愛知芸術文化センター、愛知）などがある。



（展示作品）

「花菖蒲」2021 キャンバスに油彩 27.3x27.3cm

(c) OGASAWARA Morihisa

## 荻野夕奈（おぎの ゆうな）

1982年東京都生まれ。2007年東京藝術大学大学院美術研究科修了後、アーティスト活動を始め、国内外で絵画作品を発表している。自己・女性性をテーマに、花や身体をモチーフにした絵画だけでなく、ライブペインティングや新聞の連載小説の挿絵、ファッションブランドへの展開など幅広く活動する。

近年の主な展覧会に、2020年「With in Sight」（Mizuma &Kips、ニューヨーク）、「数寄景/NEW VIEW—日本を継ぐ、現代アートのいま」（日本橋三越本店、東京）などがある。2021年1月、自身初となる作品集『FLOWER & BODY』を刊行する。



（参考作品）

「P\_220120\_1」 2020 キャンバスに油彩 73x73cm

(c) OGINO Yuna Courtesy of Mizuma Art Gallery

## 佐藤舞梨萌（さとう まりも）

愛知県生まれ。2005年講談社フェーマススクールズ卒業。自然との触れ合いから得たインスピレーションを、「理想の心象風景」へと昇華させる、生命観あふれる色彩による絵画を制作。

主な展覧会に、2020年個展「Sense of Wonder」（art space Kimura ASK?、東京）、2019年「昇華のモルフォロジー 佐藤舞梨萌／山口真和」[キュレーター:西村智弘]（KOMAGOME1-14cas、東京）、2017年個展「BLOOM」（art space kimura ASK?）、2016年「花 ドルチェ 問い/」[キュレーター:仲世古佳伸]（Gallery MARUHI、東京）などがある。



(展示作品)

「初夏のプリズム」2020～2021 キャンバスに油彩 27.3x27.3cm

(c) SATOU Marimo

## 五月女哲平（そうとめ てっぺい）

1980年栃木県生まれ。2005年東京造形大学美術学部絵画科卒業。

主な個展に、2020年「our time 私たちの時間」（void+、NADiff a/p/a/r/t、青山 | 目黒、東京）、2018年「絵と、」 [キュレーター:蔵屋美香]（gallery αM、東京）など。主なグループ展に、2019年「MOTコレクション第2期 ただいま/はじめまして」（東京都現代美術館、東京）、2017年「Post-Formalist Painting」（statements、東京）、2015年「引込線2015」（旧所沢市立第2学校給食センター、埼玉）、2014年「絵画の在りか」（東京オペラシティアートギャラリー、東京）などがある。



(参考作品)

「熱帯夜」2019 木にアクリル 9x12.3cm

(c) SOUTOME Teppei Courtesy the artist and Aoyama Meguro

## 寺門孝之（てらかど たかゆき）

1961年愛知県生まれ。1983年大阪大学文学部美学科卒業後、セツ・モードセミナーにて長沢節氏に絵を学ぶ。1985年「第6回日本グラフィック展」大賞受賞。東京・神戸を拠点に、独自の天使画をはじめ、書籍装画、広告ポスター、ライブペインティング、絵本など幅広く活動。主な展覧会に、2020年、作詞家松本隆とのコラボレーション展「風街ヘブン」（神戸市立相楽園旧小寺家厩舎、兵庫）、「天国:寺門孝之展」（西脇市岡之山美術館、兵庫）などがある。2010年角川映画「人間失格」の劇中画など他分野とのコラボレーション多数。2015年受胎告知画における天使表現の研究で博士号取得（芸術工学）。



（参考作品）

「魂のブーケ2021BLUE」 2021 リトアニアリネンにアクリル+mixed media 60.6x50cm

(c) TERAKADO Takayuki

## 長谷川繁（はせがわ しげる）

1963年滋賀県生まれ。1986年愛知県立芸術大学美術学部絵画科油画専攻卒業。1988年同大学院美術研究科修了。その後デュッセルドルフ、アムステルダムにて滞在、制作。

主な展覧会に、2019年個展「PAINTING」（Satoko Oe Contemporary、東京）、2010年「絵画の庭 ゼロ年代 日本の地平から」（国立国際美術館、大阪）、2009年「放課後のほらっぱ 櫃田伸也とその教え子たち」（愛知県美術館、愛知）、2005年「11thインドトリエンナーレ」などがある。



（参考作品）

「タイトル無し」1996 綿布に油彩 302x198cm

(c) HASEGAWA Shigeru Courtesy of Satoko Oe Contemporary

## 升谷真木子（ますたに まきこ）

1982年東京都生まれ。2012年武蔵野美術大学造形学部油絵科卒業。2014年東京藝術大学大学院絵画科油画専攻修了。日常の中にある見過ごしがちなものや、植物をモチーフとして色鉛筆を使った繊細なペーパーワークと、スタンプやステンシルを使用した絵画を制作。

主な展覧会に、2017年「light relief」（ANAインターコンチネンタルホテル東京、東京）、2016年「Whose sleeve?」（Satoko Oe Contemporary、東京）などがある。



（参考作品）

「小さな忘れもの」2016 コットンにアクリル 65x65cm

(c) MASUTANI Makiko Courtesy of Satoko Oe Contemporary

## 森本太郎（もりもと たろう）

1969年岡山県生まれ。1994年東京造形大学造形学部デザイン学科卒業。1995年東京造形大学研究生修了。現在東京を拠点に制作。

主な個展に、2020年「neutral tones」（void+、東京）、2019年「呼応するインテリア」（GALLERY TAGA2、東京）、2009年「つなぎとめるもの」（奈義町現代美術館、岡山）など。主なグループ展に、2021年「COLLECTION×森本太郎」（GALLERY TAGA2、東京）、2014年「森鷗外記念館で現代アート！ vol.2ー生命の連鎖・イメージの連鎖」（文京区立森鷗外記念館、東京）、2006年「第3回府中ビエンナーレ 美と価値ーポストバブル世代の7人」（府中市美術館、東京）などがある。



（参考作品）

「three pentagonal flowers」 2021 キャンバス（デニム）にアクリル 41.0x27.3cm

(c) MORIMOTO Taro

[キュレーター プロフィール]

## 仲世古佳伸（なかせこ けいしん）

1955年三重県生まれ。1980年大阪芸術大学芸術計画学科卒業。1991年ナカセコアート設立。展覧会のキュレーション、エディケーション、構成・ディレクション、批評、制作など、アートという視座から多面的な表現活動を行う。1995年より2000年まで、東京青山を舞台にしたアートイベント「モルフエ」の総合ディレクターを務める。近年の主な活動に、2020年「数寄景/NEW VIEW—日本を継ぐ、現代アートのいま」（日本橋三越本店他、東京他）の構成ディレクション、2011年「TARO LOVE—岡本太郎と14人の遺伝子」（西武渋谷店、東京）のキュレーションなどがある。